「がんになっても心やすらかに暮らせる場所とは？」

～切れ目ない緩和ケアと市民の支えあい～

第３回　日本メディカルヴィレッジ学会 in 八女

みどりの杜病院　　原口　勝

2020年10月24日

本日のお話し

1．メディカルヴィレッジ学会

切れ目ない緩和ケア

2．がん哲学外来

生きる意味付けは変えられる

3．メディカル・カフェ

支えあう市民の力

日本メディカルヴィレッジ学会

日本 メディカルヴィレッジ 学会　（設立：2016年6月9日）

がんなどの病を抱えた患者さんやそのご家族が、最期まで安心して暮らすことの出来る場所。それが、医療の共同体＝Medical Village（メディカル ヴィレッジ）です。3つの柱は、

「1人の人間を癒すには1つの村が必要である」
「病気であっても病人ではない」
「病気は単なる個性である」

患者さん、ご家族、それを支援する人々を支える町をつくりあげていくことを目的としています。
医療、介護、生活、すべてはつながっています。

日本メディカルヴィレッジ学会

第1回　2018年　鹿児島県徳之島伊仙町（大久保町長）

第2回　2019年　長野県小諸市（小泉市長）

第3回　2020年　福岡県八女市（みどりの杜病院）

第4回　2021年　秋田県（秋田大学医学部 柴田浩行教授）
10月 16日 (土曜日): 13:00～17:00　秋田市内のホテルで

第5回　2022年　群馬県（沼田病院）

日本メディカルヴィレッジ学会

理事長　樋野 興夫　先生との出会い

「福岡ホスピスの会」 が

がん哲学外来 「ぬくみカフェ」 を始めたこと

福岡ホスピスの会

福岡市近郊でホスピスボランティア活動を行ってきた

ぬくみカフェは、2016年5月～2020年9月、隔月で25回開催

日本メディカルヴィレッジ学会

私の勝手な解釈ですが、 学会と言っても

住民公開シンポジウム が主な内容です。

地域の状況や活動に応じて、自由にテーマが決まります。

会費を払って学会の会員になるわけではありません。

全国に演題を募集するわけではありません。

地域の現状や活動を全国に発信するための学会です。

※ 全国学会開催には縁が無いような片田舎の当地で、全国に発信できる機会をいただき、樋野先生に感謝しています

ホスピス緩和ケアの理念

ホスピス緩和ケアは、生命を脅かす疾患に直面する患者とその家族のQOL（人生と生活の質）の改善を目的とし、様々な専門職とボランティアがチームとして提供するケアである。

「日本ホスピス・緩和ケア協会」

緩和ケア病棟の入院料が算定できるのは悪性腫瘍とエイズに限られている

身体的なケア

苦痛や不快な症状の緩和
身の回りのお世話

精神的なケア

精神症状の緩和
不安・憂うつ
いらいらする
寂しい・怖い

全人的なケア

社会的なケア

家庭の問題
職場の問題
経済的な問題
などへの支援

スピリチュアルケア

生きている意味、生き甲斐
死生観、自責の念
などへの支援

病気だけを見るのではなく　一人の人間として関わり
生活全体を支援します

ホスピス緩和ケアを提供する形態

1）ホスピス・緩和ケア病棟

2）一般病棟の緩和ケア支援チーム

3）ホスピス・緩和ケアの専門外来

4）訪問診療、訪問看護、訪問介護などの

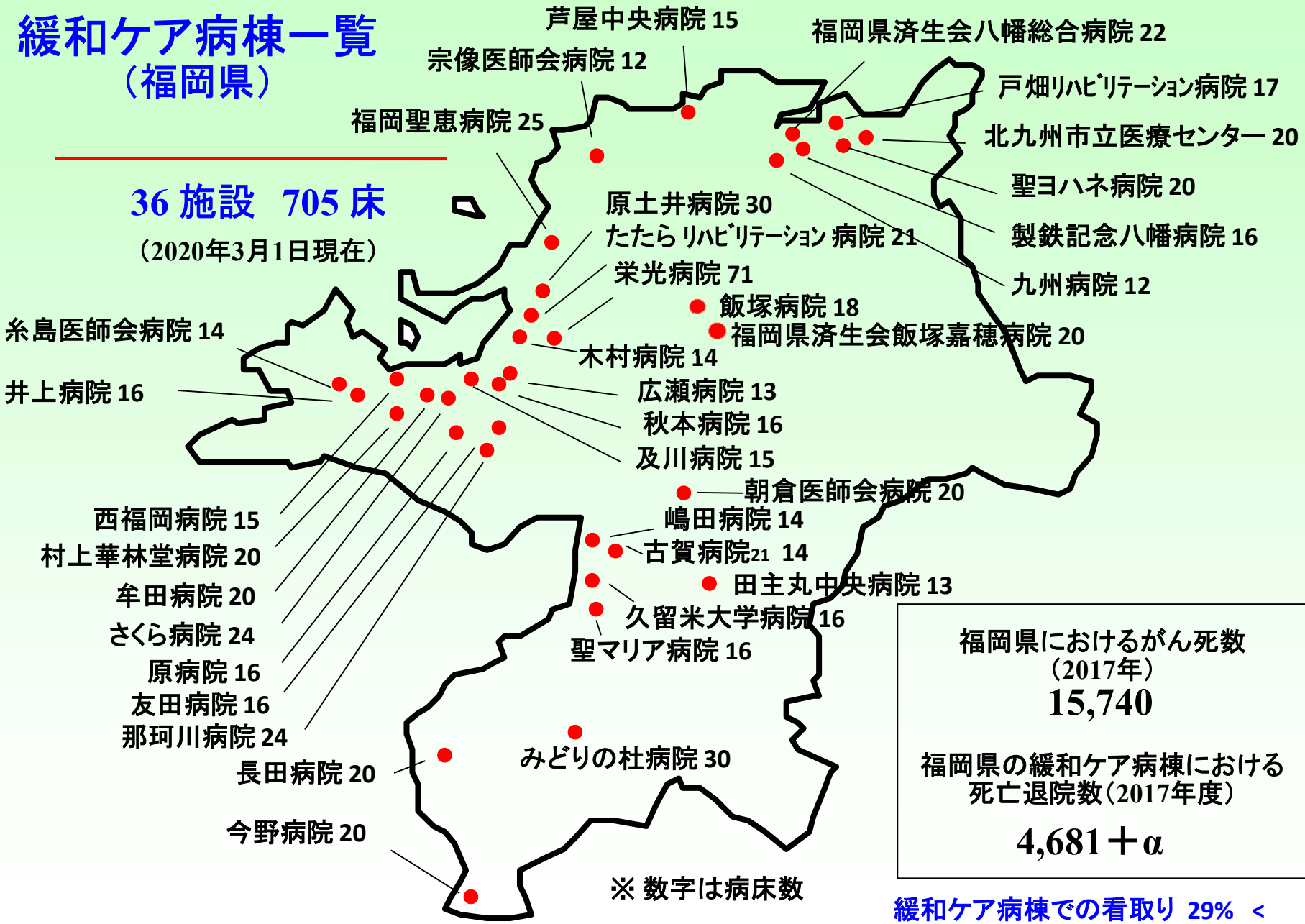
地域における在宅サービス

5）デイケア

緩和ケア病棟一覧
（福岡県）

36 施設　705 床

（2020年3月1日現在）



福岡県におけるがん死数
（2017年）
15,740

福岡県の緩和ケア病棟における
死亡退院数（2017年度）
4,681＋α

緩和ケア病棟での看取り 29%　<
(全国では 13%　)

みどりの杜病院

2011年(H23) 5月
公立八女総合病院企業団 みどりの杜病院として開院
（完全独立型緩和ケア病院　30床）

2019年

入院	217件
退院	223件
死亡退院	203件
生存退院	20件

ホスピス緩和ケアを提供する形態

1）ホスピス・緩和ケア病棟

2）一般病棟の緩和ケア支援チーム

3）ホスピス・緩和ケアの専門外来

4）訪問診療、訪問看護、訪問介護などの

地域における在宅サービス

5）デイケア

緩和ケア外来

症状緩和

がん治療医との併診

意思決定支援

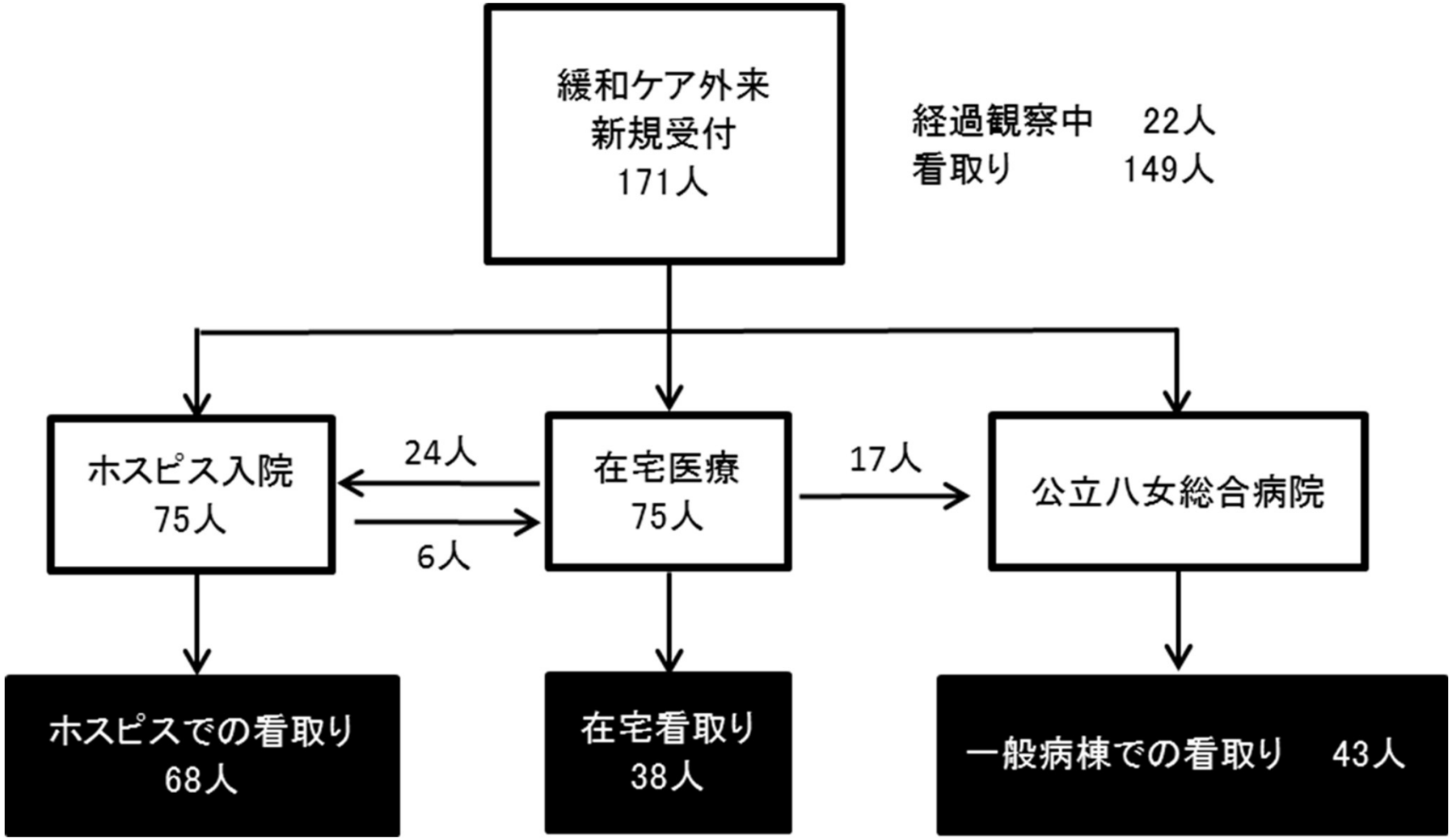
療養の場所の相談

公立八女総合病院にて

2019年

新規受付　134件

緩和ケア外来からの転帰（2016年度）



ホスピス緩和ケアを提供する形態

1）ホスピス・緩和ケア病棟

2）一般病棟の緩和ケア支援チーム

3）ホスピス・緩和ケアの専門外来

4）訪問診療、訪問看護、訪問介護などの

地域における在宅サービス

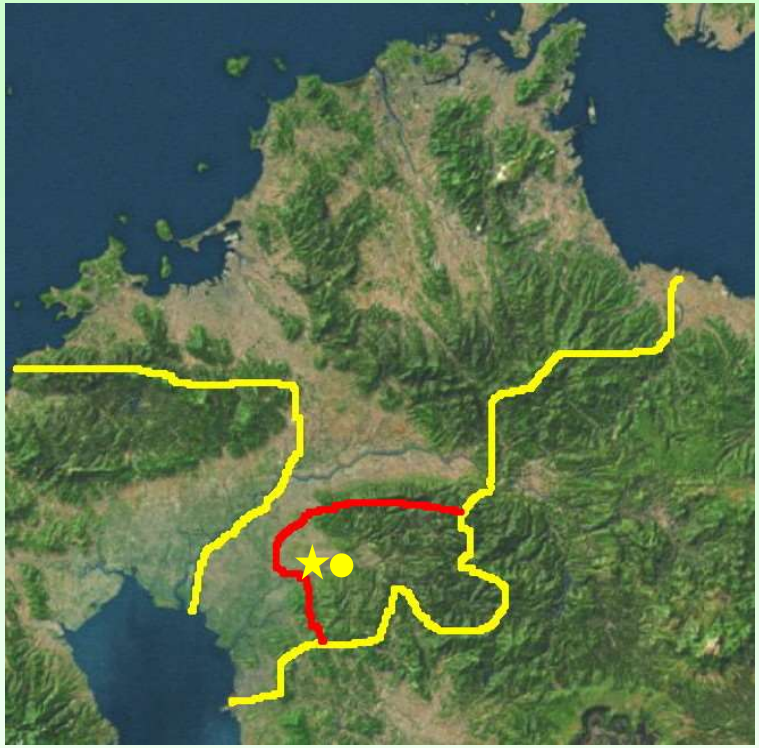
5）デイケア

みどりの杜病院　　在宅医療推進室

2015年 5月
　在宅療養支援病院に承認された。
　在宅医療推進室を設置。
　（対象は主として末期がん患者）

2019年
　訪問診療新規　　81件
　在宅看取り　　48件
　　（自宅　45件）
　　（施設　 3件）

八女筑後地域の緩和ケア



緩和ケア病院
★みどりの杜病院

緩和ケア病棟

在宅緩和ケア

がん診療連携拠点病院
●公立八女総合病院

緩和ケアチーム

緩和ケア外来

八女筑後医療圏の　がん死　470人　（2017年）

みどりの杜病院における看取り

病院での看取りの 1/3、　自宅看取りの 2/3

切れ目なく緩和ケアを提供する

がん治療を行う病院

症状緩和・併診

意思決定支援

療養の場所の相談

介護施設

緩和ケア外来

緩和ケア病棟

緊急入院

レスパイトケアや

体験入院もあり

在宅ケア

ホスピスと在宅の行き来

メディカルヴィレッジ学会の趣旨

がんなどの病を抱えた患者さんやそのご家族が、
最期まで安心して暮らすことの出来る
メディカルヴィレッジの実現

⇕

切れ目ない緩和ケアの提供

がん哲学外来

がん患者はがんとともに生きていく上で、病気を治すだけでなく、人とのつながりを感じ、尊厳を持って生きることを求めている。

『がん哲学外来』とは、生きることの根源的な意味を考えようとする患者と、がんの発生と成長に哲学的な意味を見出そうとする人との対話の場である。

がん哲学外来　メディカル・カフェ　の手引き　から

言葉の処方箋

・自分以外のものに　関心を持つと、　やるべきことが　見えてくる。

・問題は　解決できなくても、　解消できさえすればいい。

・病気になって　はじめて　人生の優先順位に気づく。

・あなたにはまだ、死ぬという　大切な仕事が残っている。

明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい
「今日」という日の花を摘む

樋野興夫先生の著書から

言葉の処方箋はスピリチュアルケア

「がんが治らない」という現実は変えられない

「どう　受け止めるか？」は変えることができる。

「そう考えれば腑に落ちる」

「そういうふうに信じたら心が落ち着く」

自分の生きる意味付けは変えられる

⇕

言葉の処方箋でヒントを得られる

メディカル・カフェ

メディカル・カフェは、がん哲学外来と同様、お茶を飲みながら、ゆったりとした雰囲気で、患者さんや、ご家族や医療者が同一の平面で対話する場です。

がん相談などでは、相談に出かけた方は、何かアドバイスをもらって帰るという感じですが、メディカル・カフェの同一平面という感覚は、相談者が教えられる立場とは異なります。

がん哲学外来　メディカル・カフェ　の手引き　から

市民の支え合いがどうして必要か？

体験者の支え合い

・病院でゆっくり医療者と話すことが難しくなっている

・家族にも自分の悩みを話せない患者さんがいる

遺族の支え合い

・病院で遺族ケアを行っているが、継続して行うことは難しい

・在宅医療においても遺族ケアが求められているが、

行っているところは少ない

ぬくみカフェ

「ゆっくり話を聴いてもらえてよかった」

「家族には話せないことも話すことができた」

ぬくみカフェ

「自分だけでないことが分かった」

「ここに来て元気をもらった」

市民の助け合う力を引き出す

患者さん、ご家族、それを支援する人々を支える

町をつくりあげていくために

ピアサポート （peer support） が必要である

＝ 同じような立場の人によるサポート

「自分の体験を生かしたい」

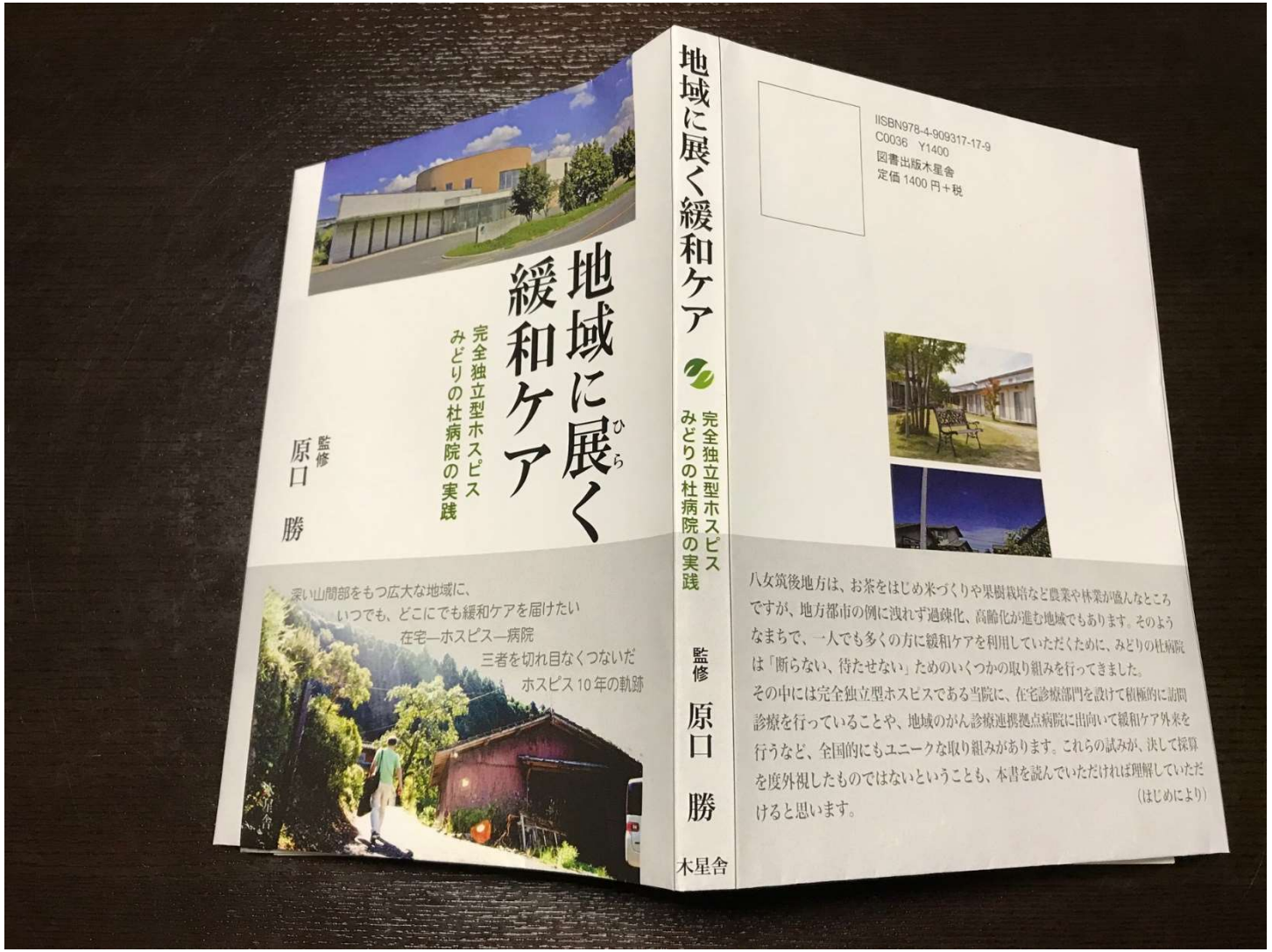
「人の役に立ちたい」

ま と め

1. 「地域に切れ目ない緩和ケアを提供する」ことは、
メディカルヴィレッジ学会の趣旨に合致します

2. 市民の支え合う力 が
メディカルヴィレッジの実現には必要です
⇒ シンポジウムを ご視聴ください

3. がん哲学外来 「ことばの処方箋」 は
スピリチュアルケアに他なりません
⇒ 樋野先生の特別講演を ご視聴ください



切れ目ない緩和ケアの実践を本にまとめました。

職員が全員で執筆しました。

たくさんの事例が、ホスピスの現場を分かりやすく伝えます。

ご清聴ありがとうございました